

<p>委員会名</p>	<p>産業建設委員会</p>
<p>調査研究 テーマ</p>	<p>道と景観（ランドスケープ）について</p>
<p>テーマ設定の 背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 10 月の議会報告会（産業建設委員会分科会）において「飯田市への人の流れをつくるために IIDA ブランドをどう磨いていくか」をテーマとして市民との意見交換を行った。</li> <li>・その中で飯田市の景観や風景、西部山麓線を活用すべき、等の意見が多く出された。</li> </ul>
<p>調査研究の 経過・結果</p>	<p>[課題整理]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状のままでは、西部山麓線周辺などの景観や風景を地域資源として活用することは難しい。</li> <li>・西部山麓線や信濃路自然歩道等の整備が遅れている。</li> </ul> <hr/> <p>[取組経過]</p> <p>□平成 29 年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10 月 4 日～10 月 12 日 … 平成 29 年度 議会報告会              テーマ：「飯田市への人の流れをつくるために IIDA ブランドをどう磨いていくか」              飯田市の景観や風景、西部山麓線を活用すべき、等の意見が多く出された。</li> <li>・12 月 13 日 … 第 4 回定例会 産業建設委員会 協議会 勉強会              今後の活動方針の確認             <ul style="list-style-type: none"> <li>①「リニア時代を見据えた飯田市の景観・風景と道」をテーマとし                  西部山麓線～山本・天龍峡～竜東広域農道⇒飯田の景観を楽しめる道                  「信濃路自然歩道」について</li> <li>②勉強会（講演含む）、現地視察等</li> </ul> </li> </ul> <p>□平成 30 年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 月 25 日 … 産業建設委員会 管内視察</li> <li>・8 月 20 日 … 産業建設委員会主催による勉強会（議員、職員）              講演：「リニア時代を見据えた飯田市（南信州）の景観・風景について」              講師：信州大学 総合理工学研究科 環境共生学分野 上原三知 准教授             <ul style="list-style-type: none"> <li>①講演の部                     <ul style="list-style-type: none"> <li>●ヨーロッパで進む、地域づくりと景観、生物多様性、ツーリズム、住宅価値の複合保全などの取り組み                              日本の地域、農山村の代表である長野県のランドスケープ・デザインによる（複合的な地域計画）モデル構築を実現する意義は大きい</li> <li>●事例発表                              地域計画部門と軽井沢町の連携に関する提案                              伊那市イメージマップ調査</li> <li>●具体的な飯田市の道、ネットワークのポテンシャルに対する考察と提言</li> </ul> </li> <li>②講師との意見交換会</li> </ul> </li> <li>・11 月 21 日 … 現地視察（委員、観光課長、林務課長）              広域農道（松川町、高森町、座光寺、上郷）、西部山麓線（伊賀良、山本）</li> </ul>

## 所管事務調査報告書

山本～天龍峡、広域農道（竜東、喬木村、豊丘村）  
 周辺スポット（野底山森林公園、猿庫の泉、佐倉神社、梅ヶ久保、沢城湖、城山公園、  
 下瀬（ビューポイント）、豊丘村・てっぺん公園 など）

●伊那谷における「道」は、交通の経路に留まるだけでなく、地域特有の景観や森林環境、山・里・まちにおける人々の営みに触れることの出来る資産であり、飯田ブランドの一つに成り得る。

- ・ 12月25日 … 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
 現地調査の振り返りと意見交換

□平成31年

- ・ 2月7日 … 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
 提案に向けた意見交換
- ・ 2月12日 … 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
 提案に向けた意見交換
- ・ 2月18日 … 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
 提案に向けた意見交換
- ・ 3月11日 … 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
 提案に向けた意見交換
- ・ 3月20日 … 全員協議会  
 取り組みの経緯と提案事項を報告し、全議員で共有
- ・ 3月 … 提案書手交  
 正副委員長から、担当部長に対し提案書を手交し概要を説明

〔調査研究結果〕

- ・ 当委員会では2年間に亘り調査研究を実施してきたが、特に西部山麓線、広域農道（竜東・竜西）や信濃路自然歩道等から展開する景観はポテンシャルが高く、道の活用は、ツーリズム、癒し、健康、地域づくり等に通じることが明らかになってきた。
- ・ 一方、「道」を健康づくりに生かした山形県上山市のクアオルト事業や、田園風景のランドスケープを重視した安曇野市の土地利用基本計画など、「道」の活用や景観を戦略的に捉える自治体も増えてきている。
- ・ リニア・三遠南信ネットワークが整備される大交流時代の到来を前に、飯田市の「道」や景観が持つ潜在的価値をあらためて洗い出し活用していくことは、新しいまた意義ある政策と考えられる。
- ・ そこで、委員会での調査活動を踏まえ、課題解決のための提案事項を確認し、平成30年3月に関係部署に対する提案としてまとめた。

## 「道」と景観（ランドスケープ）に関する政策提案 （リニア・三遠南信道時代に向けて）

伊那谷における「道」は、交通の経路に留まるだけでなく、地域特有の景観や森林環境、山・里・まちにおける人々の営みに触れることの出来る資産であり、飯田ブランドの一つに成り得る。ツーリズムをはじめ健康、癒やし、地域づくり、さらにはシビックプライドの醸成にも通じる潜在的価値を秘めている。

産業建設委員会では、平成 29 年 10 月の議会報告会で「飯田市への人の流れをつくるために IIDA ブランドをどう磨いていくか」をテーマとして市民との意見交換を行った。その中で飯田市の景観や風景、西部山麓線を活用すべき、等の意見が多く出された。また、先の代表質問、一般質問でも複数の議員から取り上げられている。

当委員会として 2 年間に亘り調査研究を実施してきたが、特に西部山麓線、広域農道（竜東・竜西）や信濃路自然歩道等から展開する景観はポテンシャルが高く、道の活用は、ツーリズム、癒し、健康、地域づくり等に通じることが明らかになってきた。

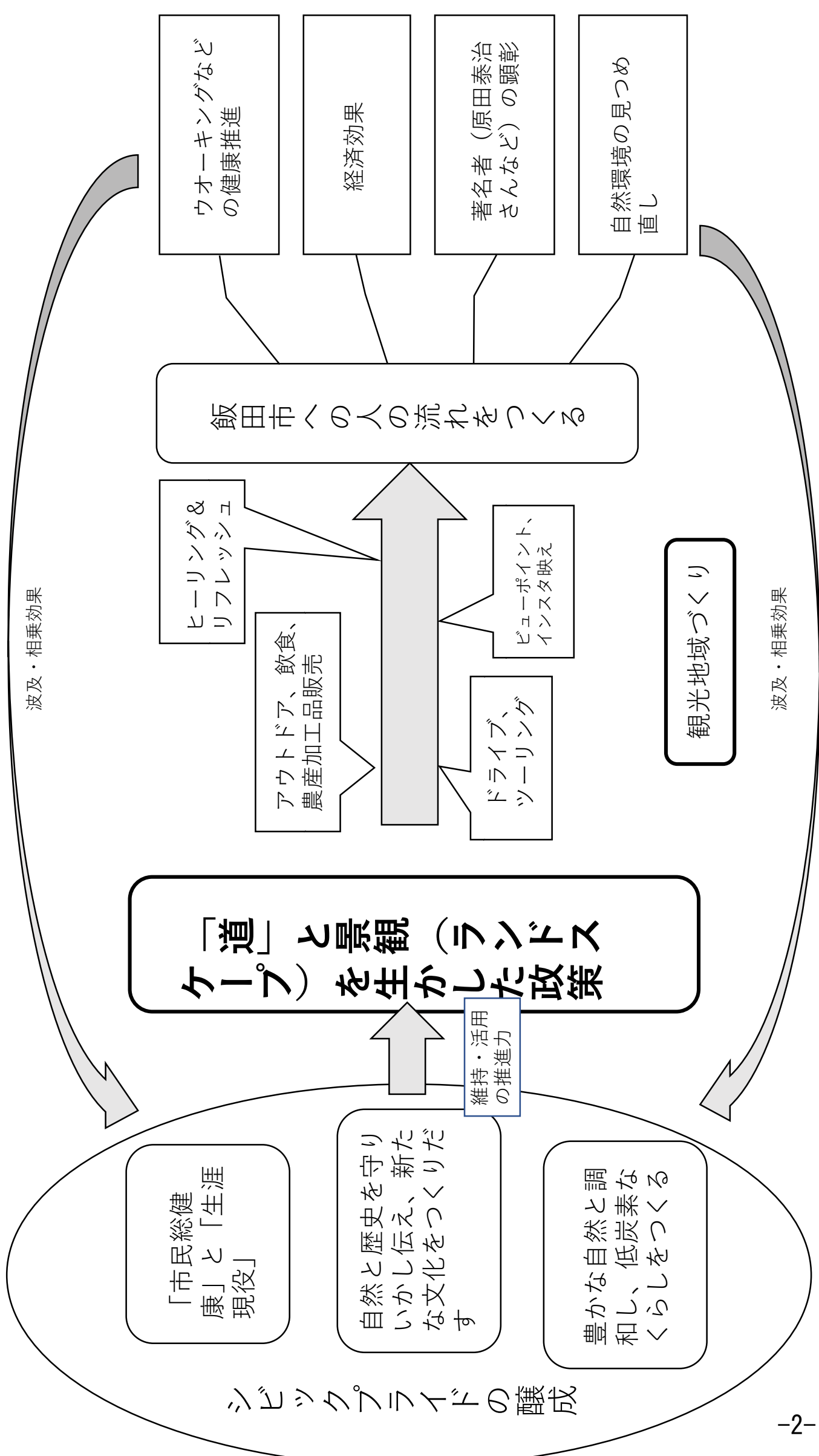
一方、「道」を健康づくりに生かした山形県上山市のクアオルト事業や、田園風景のランドスケープ※1を重視した安曇野市の土地利用基本計画など、「道」の活用や景観を戦略的に捉える自治体も増えてきている。

リニア・三遠南信ネットワークが整備される大交流時代の到来を前に、飯田市の「道」や景観が持つ潜在的価値をあらためて洗い出し活用していくことは、新しいまた意義ある政策と考える。

そこで、以下 3 点について提案する。

- ① 「道」と景観（ランドスケープ）を、「飯田市観光振興ビジョン推進ロードマップ」など、今後の観光戦略を推進する視点として重視されたい。特に、西部山麓線、広域農道（竜東・竜西）や信濃路自然歩道等の活用について、地域と協働し観光地域づくりの資源として磨かれたい。
- ② 「道」と景観（ランドスケープ）を、飯田市の土地利用基本方針等に反映されたい。また、必要に応じ関係計画の見直しや、関連する道路整備を進められたい。
- ③ 「道」と景観（ランドスケープ）を、地域磨きや健康づくり等につなげ、シビックプライドの醸成や飯田市への人の流れをつくる視点として重視し、総合政策的に「いいだ未来デザイン 2028」を推進されたい。

※1 ランドスケープは「風景」「景観」などと訳されるが、景域単位の「自然」と「人間」のかかわりの様態とも言われ、近年土地利用において重視されている。



## ■取組経過

□平成 29 年

H29. 10. 4～12 平成 29 年度 議会報告会

「飯田市への人の流れをつくるために IIDA ブランドをどう磨いていくか」  
飯田市の景観や風景、西部山麓線を活用すべき、等の意見が多く出された。

H29. 12. 13 産業建設委員会 協議会 勉強会

今後の活動方針の確認

①「リニア時代を見据えた飯田市の景観・風景と道」をテーマとし

西部山麓線～山本・天龍峡～竜東広域農道⇒飯田の景観を楽しめる道

「信濃路自然歩道」について

②勉強会（講演含む）、現地視察等

□平成 30 年

H30. 4. 25 産業建設委員会 管内視察

H30. 8. 20 産業建設委員会主催による勉強会（議員、職員）

講演：「リニア時代を見据えた飯田市（南信州）の景観・風景について」

講師：信州大学 総合理工学研究科 環境共生学分野 上原三知准教授

①講演の部

●ヨーロッパで進む、地域づくりと景観、生物多様性、ツーリズム、住宅価値の複  
合保全などの取り組み

日本の地域、農山村の代表である長野県のランドスケープ・デザインによる（複  
合的な地域計画）モデル構築を実現する意義は大きい

●事例発表

地域計画部門と軽井沢町の連携に関する提案

伊那市イメージマップ調査

●具体的な飯田市の道、ネットワークのポテンシャルに対する考察と提言

②講師との意見交換会

H30. 11. 21 現地視察（委員、観光課長、林務課長）

広域農道（松川町、高森町、座光寺、上郷）、西部山麓線（伊賀良、山本）、  
山本～天龍峡、広域農道（竜東、喬木村、豊丘村）

周辺スポット（野底山森林公園、猿庫の泉、佐倉神社、梅ヶ久保、沢城湖、城山公  
園、下瀬（ビューポイント）、豊丘村・てっぺん公園 など）

●伊那谷における「道」は、交通の経路に留まるだけでなく、地域特有の景観や森  
林環境、山・里・まちにおける人々の営みに触れることの出来る資産であり、飯  
田ブランドの一つに成り得る。

H30. 12. 25 産業建設委員会 協議会 勉強会  
現地調査の振り返りと意見交換

□平成 31 年

H31. 2. 7 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
提案に向けた意見交換

H31. 2. 12 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
提案に向けた意見交換

H31. 2. 18 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
提案に向けた意見交換

H31. 3. 11 産業建設委員会 協議会 勉強会（道と景観について）  
提案に向けた意見交換

H31. 3. 20 全員協議会  
取り組みの経緯と提案事項を報告し、全議員で共有

H31. 3. 提案書手交  
正副委員長から、担当部長に対し提案書を手交し概要を説明

## ■研究手法

①議会報告会で出された意見を起点とする

②専門的知見

上原先生の講演、先生との意見交換会 P5～

③現地視察

委員からの意見 P7～

④各地区の宝・魅力、取り組み等のレイヤー分析（委員会試案例示）

～ふるさと納税「20 地区応援隊」より抜粋 P9-  
現地視察の結果等

⑤提案策定

■ 上原三知 信州大学大学院准教授 講演

リニア時代を見据えた 飯田市（南信州）の景観・風景について  
フットパス（里山歩道）、「道」の IIDA ブランドに対する助言等

- ヨーロッパで進む、地域づくりと景観、生物多様性、ツーリズム、住宅価値の複合保全などの取り組み



日本では、農振法、森林計画、生物多様性基本法、都市計画の個別提案の不整合

↓↓

特に日本の地域、農山村の代表である長野県のランドスケープ・デザインによる（複合的な地域計画）モデル構築を実現する意義は大きい

※ランドスケープ・デザイン：

ランドスケープは「風景」「景観」などと訳される。日本において狭義には「眺め」および「その特性」と捉えられるが、広義には景域（流域）単位の「各土地利用」および「自然」と「人間」のかかわりの様態であると考えられ、これをデザインする行為。

（～上原准教授）

●具体的取り組み例

①地域計画部門と軽井沢町の連携に関する提案

「※健康を意識した街づくり」と連動する

<景観美の継承と保養地の形成>というテーマを提案

②伊那市イメージマップ調査

対象者：旧伊那北国民学校に通っていた高齢者と伊那北小学校の小学5年生

・昔の子供は地域の多様な空間要素を認識していた

- ・ 田園環境に住みたいと思うことに対しランドマークを認知することが寄与している
- ・ 田園地域において、昔の子供のように体験に伴った地域の認知がなければ地元に対する愛着は高まらない

※ランドマーク：

都市景観や田園風景において目印や象徴となる対象物。歴史的、文化的に価値のある建造物、記念物、町並み、領域の境界を示す境界標など

●具体的な飯田市の道、ネットワークのポテンシャルに対する考察と提言

- ・ 未整備箇所に対する整備の要望にどこまで行政が応えられるか
- ・ 山麓線、ハーモニックロードから眺めるアルプスや景観の美しさを大事に地域の宝として磨くべき
- ・ 道路は所管の建設部が「維持」「整備」→部署を越え新たな意味づけにより「道」が地域の「宝」、ぐるりと周遊できる環状線となる
- ・ 市民から、西と東を今ある道を少し整備し繋げることで周遊ルートができるのでは
- ・ 「環状線」を幹に光を当てることで「信濃路自然歩道」も生きてくる。
- ・ 広域農道における看板モデル例

広域農道駒ヶ根方面\_現状



広域農道駒ヶ根方面\_変更後



3つの相関

農村住民 都市住民との交流 民泊

都市住民 休日における田園地域でのリフレッシュ 農村生活体験

行政 景観の保全、旅行者による外貨獲得





【伊賀良北方地区から眺めた南アルプス】

1 良かったこと（地域資源になりそうなビューポイントや道）

- ・ハーモニックロード、西部山麓線、広域農道（竜東）は天竜川向かいの眺望が良く、信号もないためドライブコースとしてもポテンシャルが高いと感じた。上原三知准教授が指摘していた「良い景観は慣れ（飽き）やすい」と照らしても、所々にビューポイントがある為、これらに立ち寄ることで慣れを一旦リセットできる利点がありそうだと感じた。
- ・今回視察で回った道およびポイントは、地域資源として線で結ぶことのできるものであると改めて感じる事ができた。
- ・今回、現地調査させていただき、すべての個所において、当地域の資源を再認識することができた。
- ・西部山麓線、信濃路自然歩道は今まで殆ど光が当たらなかったが、今回の調査で改めてポテンシャルの大きさを感じた
- ・猿庫の泉入り口から泉の処までの遊歩道が良かった。
- ・三和農園からの眺望が良かった。
- ・野底山森林公園がとてもよく手入れがしてあった。
- ・ビューポイントは、多くあった。ポニー、佐倉様ほか
- ・道：西部山麓線、広域農道（竜東・ハーモニックロード）、信濃路自然歩道の整備された数か所。
- ・ビューポイント等：  
松川（中平農場付近）の果樹地帯から見た眺望、シードル・りんご販売店。

上郷黒田からの市街地眺望。野底山の散策路。猿庫周辺。

北方（ポニー牧場周辺）の果樹地帯から見た南アルプスの眺望。佐倉神社。山本城山。伊豆木の高台。小笠原書院。下瀬からみた天竜峡大橋。広域農道（竜東）からみた夕日。下久堅大原地区。てっぺん公園 等。

## 2 もう少し磨く必要があること

- ・猿庫の泉へ向かう遊歩道は素晴らしいコースだが、認知度が低く、スタート地点へのアプローチが未整備（猿庫の泉側には駐車スペースがあるが、こちらを起点にすると下り道になってしまう）。
- ・座光寺～上黒田「一本杉」間、沢城湖の展望スポットなどは、潜在力のあるスポットだと感じた。人が行き来できる場所として整備・発信していく必要があるそう。
- ・景観として売り出すためには、地域の皆さんが「素晴らしい宝」であるということに気づき、無理しない範囲でほんの少しでいいので枝打ちをしたり草刈りをして「うっそう」とした感じをなくしていくことが必要ではないかと感じる箇所がいくつかあった。
- ・沢城湖については、草を刈れば展望も良くなり、景色を楽しみに人も訪れる機会が増えると感じた。
- ・下瀬から、天龍峡大橋・JRが見えるビューポイント。
- ・沢城湖の展望台。
- ・名水百選 猿庫の泉：今年、30台以上の観光バスによる観光客があった。大型バスの駐車場整備と自家用車用駐車場を2年前に整備した遊歩道近くに整備する必要がある。地権者である曙友会生産森林組合及び猿庫の泉保存会などと共に更なる誘客に向け協議を進める。
- ・梅ヶ久保上の神社：桜など四季の花木を植樹し佐倉様との一体化により花の名所とするのも良いかも。
- ・飯田高原：景観は抜群である。沢城湖から直接登れる遊歩道を整備するなど沢城湖とあわせ再整備が必要か、車両は完全に止めて徒歩で散策できるようにしたらどうか。
- ・座光寺 SIC 開通後に山麓線への乗り入れが容易になる利便性をどう生かし磨いていくか、具体的には座光寺から上郷上黒田の未開通箇所に対し、遊歩道や吊り橋などで繋げることで、野底山森林公園と SIC を結ぶ動線が明確になるのでは。
- ・自然歩道は案内看板も含め今一度見直す作業が必要。そこに市民参画をどう進めるか。
- ・沢城湖展望台周辺（いまのままでは荒れたまま）
- ・西部山麓線と広域農道（竜東）を結ぶ山本・三穂の市道を環状線の一部として位置づけ、案内看板などで整備する。

## 3 現地調査から今後に活かせること

- ・四季（春夏秋冬）による景色の見え方の違いを更に調査研究し掘り下げて、それぞれのいいところをアピールすることができると、より強い売りとなるのではないかと感じた。
- ・現時点でもしっかりと管理がされている、野底山森林公園や猿庫の泉などは、点を線でつ

なくことができれば（来飯者への時間でのコースパンフなど）、来飯者のリピートにつながる感じた。

- ・現地調査した一つ一つが宝だと思うので、それらを繋いで活かす方策を考えたい。
- ・一連のルートを、幾つかのコースに分けて、ウォーキングルートとする。
- ・クアオルトやフットパスなど健康と自然・景観を組み合わせた、交流人口拡大に向けた観光ツアーなど企画は可能と思われる。
- ・今後、更に普及が見込まれるウォーキングやサイクリングのコース設定に生かせるのでは。

#### 4 「道と風景」をテーマとして提言できること

- ・昨年度の議会報告会では「ブランドチェーン」という表現で提言をいただいた。ところどころ物理的に寸断された箇所があるものの、全体的にはチェーンとして繋がっている印象をあらためて確認できた。短期的には、ビューポイントや物販・飲食、花見などの点を情報発信でチェーン化し、中長期的に物理的な動線として整えていくビジョンが求められる。
- ・「急に視界が開けて出会う大パノラマ」「3000m級が連なる南アルプスを一望できる絶景街道」という、素人でもすぐに出てくるキャッチコピーがあるということは、面の外郭の一つの線の観光戦略として提言できるのではないかと感じる。
- ・そのためには、面となる部分で何を売りにするのか、外郭線外となる遠山郷とのつながりをどのようにするのもあわせて提言できるといいのではないかと考える。（が、今回はそこまでの時間がないと感じている）
- ・信濃路自然遊歩道のすべてを整備することは、難しいと感じた。整備できそうな遊歩道をピックアップすると共に、地域をブロック分けし、地域内外の人が活用できる道や名所をつなぐマップやパンフを作成したらどうか。
- ・かつて着目した信濃路自然歩道を、癒しや健康の為に点検と整備を行う。
- ・四季折々の自然と土地々の食を繋げるコース設定。
- ・キーワード：健康、自然、公園、観光ツアー、景観、風越山、アルプス、飯田市内の夜景、野点茶会、水、桜、紅葉、ウォーキング、マレットゴルフ、自転車、焼き肉  
→ これらのキーワードを結びつける 「何か」 できないか？
- ・今回走行した「道」を縦糸に、周辺の自然歩道やフットパス・ビューポイント・歴史文化ポイントなどをレイヤーで重ね、観光やクアオルト、癒し、暮らし、まちづくり等を横糸にすることで、市民主体の飯田の新たな魅力づくりにつながる可能性を感じた。  
こうした、今まで埋もれていた飯田（南信州）の魅力をも市民と行政とが協同で磨く行動こそがシビックプライドとなり、得られたランドスケープがリニア三遠南信時代の飯田ブランドの一つに成り得るのでは。これからの時代は、人と自然（道と風景）にスポットを当てた暮らしの有り様、まちづくりのあり方が求められているように思う。
- ・議会報告会での市民の声や、今回の代表・一般質問などでも、「道と風景」に通じる指摘が幾つもあり、今後議論を深めることで「いいだ未来デザイン2028」の次の4年間の

基本目標に生かせるヒントが見つかるものと期待している。更に煮詰め、議会から政策提言にまとめたい。

#### 5 その他 感想（あれば）

- ・今回の調査は竜西→竜東だったが、竜東→竜西の逆コースにすればまた違った印象が得られるかもしれない。
- ・加えて、竜西 or 竜東×北行き or 南行き（半日コース化）など、切り取り方・組み合わせ方によって幅広い選択肢を持った提案に出来そう。
- ・この地域が持っている自然豊かな景観は、やっぱりポテンシャルが高いと感じることができた。
- ・伊賀良地区では、まちづくり委員会で自然歩道について調査研究を行っている。
- ・一度、関係する、伊賀良、山本、羽場、丸山、上郷などの、まちづくり委員会役員と懇談会を行い、今後の方針等話し合うのも必要ではないか、それぞれに、地域資源を守り磨いていこうとする考えは、共通していると思われる。
- ・松川～高森～座光寺、猿庫周辺、北方～沢城～山本、広域農道（竜東）をそれぞれブロックとして括り、「南信州感動線」として繋げてみるのも面白いかな。飯田市に拘らず、広域的視点が必要。



【委員会の現地調査の様子】

## ■H29.10 議会報告会資料

**各地区の宝・魅力、取組み等** ～ふるさと納税「20地区応援隊」より抜粋～

→委員会で各地区の宝・魅力、取組み等を、「自然歩道、景観、ビューポイント、生物多様性、歴史文化、ツーリズム、食、地域づくり等」に分類。

レイヤー化、マッピングにつなげる。

### ●竜東ブロック

眺望に優れる多くのポイントと歴史のある神之峰城址

眺望のよい景勝地（平栗峠、神之峰、サンセットポイントなど）の保全の推進

自然を生かした観光の推進

名勝天龍峡 天龍ライン下り

八重桜街道ライトアップ 2km200本

300年余の人形浄瑠璃「今田人形」

光雲寺の彼岸花

リンゴ狩り

日本の棚田百選「よこね田んぼ」景観整備・観光客の受入れ体制の検討

JR 飯田線秘境駅 千代、金野駅

野池御柱祭

千代野外音楽祭 千代に来てもらい、知ってもらおう交流イベント

### ●北部ブロック

野底山森林公園 地域密着型の公園づくり

黒田人形浄瑠璃

飯沼諏訪神社御柱祭

「健康づくり推進宣言の町 上郷」

舞台桜、石塚桜

県指定南本城、県宝麻績学校校舎（舞台校舎）、竹田人形館

国指定恒川官衙遺跡、国指定高岡古墳、元善光寺

渋谷区との交流

「2000年浪漫の郷」の取り組み

●西部ブロック（伊賀良、山本、三穂）

アップルロードりんご並木

原田泰治の原風景 H18.5NHK 課外授業ようこそ先輩

沢城湖～飯田最大の溜池

大井（伊賀良井） 県内でも有数の歴史的水利施設

杵原学校 杵原学校応援団 ～『母べえ』 ロケ

七久里神社の秋季祭典

旧石器時代の遺跡群（沖平南遺跡、竹佐中原遺跡、石子原遺跡 他）

「まるで日本昔話の世界のような…」 日本の原風景（農山村の風景）

国重要文化財 旧小笠原家書院

●遠山ブロック

南アルプス ジオパーク・ユネスコエコパーク

日本のチロル「下栗」（にほんの里 100 選）

霜月祭り

しらびそ高原、御池山隕石クレーター（日本有数の天体観測スポット）

旧木沢小学校

龍淵寺観音霊水（平成の名水百選、日本一の鉱物物質含有率）

●飯田5地区ブロック

「まるごと博物館」菱田春草生誕地

正永寺、専照寺、黄梅院の一本桜

登録有形文化財建物群（下伊那教育会館、旧飯田測候所など）

橋北イルミネーションフェスタ

りんご並木

焼肉日本一の街、人形劇のまち、裏界線の街

飯田動物園

イベント（お練祭り、りんごん、やまびこマーチ、人形劇フェス、丘のまちフェス、獅子舞フェス、他多数）

文化施設（美博周辺、川本喜八郎人形美術館、他多数）

猿庫の泉（日本の名水百選）

風越山（風越子どもの森公園、風越登山マラソン、ベニマンサク）

大平宿（キャンプ、合宿、「隠し剣鬼の爪」のロケ地、古民家）

元山白山神社

正永寺桜

桜並木

2つのラウンドアバウト

●中部ブロック（県、松尾、竜丘、川路）

妙琴公園

矢高神社周辺の個性的で高質なレストラン群

鳩ヶ嶺八幡宮 ～紅葉ライトアップ

毛賀くよとの枝垂桜

国指定飯田古墳群 の中核

時又灯ろう流し、初午祭り

天竜川鷺流峡復活プロジェクト H27.6 結成 景観保全活動

ギフチョウ生息地域

名勝天龍峡

遊歩道、「ご湯っくり」 雑貨市「南信州天竜峡マルシェ」、天龍峡マラソン、  
盆踊りなど

天龍峡エコバレー

J R 飯田線秘境の旅玄関口

特徴ある地域づくり 景観育成方針（屋外広告物規制）